

平成 30 年度第 1 回えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会  
議事概要

**議事 1. 次期管理計画の策定スケジュールについて**

- 事務局より、平成 28 年と平成 29 年は秋サケが記録的な不漁であり、3ヶ年の事業評価が難しいことから、現行の管理計画を 1 年延長し、次期管理計画は平成 32 年度開始とすることを説明。
- 現行管理計画の 1 年延長について、本協議会として了承を得た。

**◆主な意見、質問**

- ・計画を 1 年延長しても、現在行っている事業は継続して実施していくのか？（漁業関係者）  
→継続して行っていく予定。（事務局）

**議事 2. 今年度事業の実施状況について**

- 事務局より、資料 2-1 及び資料 2-2 に基づき、今年度のこれまでの防除対策、個体群管理等の実施状況について説明。
- 今年度の新たな取り組みとしては、防除格子網の改良（菱目型）、歯腔解析による年齢査定、タコ被害状況の調査、被害意識調査等。
- 刺し網は、春に 5 回実施。定置網による捕獲を含め、今年これまでの捕獲頭数は 132 頭。

**◆主な意見、質問**

- ・昨年度の科学委員会で防除格子網の網目を六角目にしてはどうかと意見が出たが、製作会社の都合上、難しいようだ。（有識者）
- ・目標の 140 頭に達したら、もう捕獲はしないのか（漁業者）  
→最初に決めた 140 頭に従う予定。了解いただければ余分に捕獲した個体に発信機を付けて放獣することも検討したい。個体群シミュレーションには、混獲頭数として 70 数頭も含まれて計算されているので、秋の段階で混獲頭数が極端に少ないようであれば、捕獲頭数を増やすことも検討する。（事務局）
- ・網に執着している個体を捕獲することで被害軽減効果を期待できる可能性があるため、その様子を見ながら、混獲も減ってきていることも踏まえ、全体的な捕獲枠をどうするかを検討することもできると思う。（有識者）

**《報告会》**

- 函館頭足類研究所 所長（北海道名誉教授）桜井泰憲氏より「北海道太平洋の海洋環境と

漁業資源の動向について」講演いただいた。

以上